

**University of Tsukuba
College of International Studies
International Trade**

Instructor: Professor Hisahiro Naito
Class: Class room: 3A405
Time: 12:15-15:00

Office 3K building 3K316
Email: hnaito@dpipes.tsukuba.ac.jp
Office hour: Thursday 15:15-16:30 appointment is needed.
Class website: <http://www.dpipes.tsukuba.ac.jp/~naito/>
Phone: 853-7431

Objective

This course studies positive and normative sides of international trade. As economic activity becomes more and more global, it is increasingly becoming important to know the nature of international trade.

The ultimate purpose of this class is that at the end of this trimester students can think logically about issues related with international economy such as whether Japan should allow the immigration of unskilled foreign workers, whether foreign direct investment abroad is harmful to Japan, whether opening agricultural products are harmful for Japan, whether trade is bad for environment.

To be able to answer those questions, this course studies the benefit and the cost of international trade, which goods will be exported and which good are imported (comparative advantage theory), who will become winner and loser in international trade (the Stolper-Samuelson theorem), what the government can do for international trade and what the government should do. Political economy of trade policy.

このクラスでは国際経済学の貿易サイドを勉強します。すこし新聞を見てみるだけで、国際経済が我々の経済生活に大きな影響を与えていることがわかります。

リーマンショックによる日本の不況は、世界経済と日本経済が完全に独立であるわけには行かないことを示しています。またこのシラバスを書いている現在、非常な円高が進んでいますが、多くの経営者がこの円高がつづけば、日本で生産を行うことはできないと主張しています。

現在日本では、70万人から90万人程度の外国人労働者が働いているといわれます。また静岡県浜松市、群馬県太田市、群馬県大泉市などでは、外国人労働者の数が急増し、行政・教育上の問題が発生しているため、外国人集住都市会議というようなカンファレンスを毎年開いて情報交換を行っているほどです。これらの都市では、人口比でみて外国人の割合が10パーセントを越えています。日本が国内労働市場をさらに開放し、あと70万人程度受け入れた場合、我々の生活はどのように変わるのでしょうか。人手不足に悩んでいる3K産業のようなどころは助かると思いますが、我々の生活は改善するのでしょうか？外国人労働者を受け入れることは、高齢化・少子化が進んでいる社会に解決策になるのでしょ

うか？そもそもこのような質問に答えるためには、経済のどこを見ればよいのでしょうか？

このクラスでは、このような素朴ではありますが、重要な経済問題に対して一貫性をもって議論ができるようになる事を目標におきます。上に挙げた問題の多くは、まだはっきりした答えがでていない研究課題で、多くの研究者がデータを集めたり理論を考えたりして考察をしている問題です。しかし答えがまだ出ていないとしても、これまでの研究によってありうる答えの範囲は狭まって来ています。

上のような問題に答えを出すために、経済学は過去150年間一貫した方法でアプローチを行い知識を蓄積してきました。時々一般的なメディアで見かけられるような、ある問題にはAという論法を使い、違う問題には正反対のBという論法を使うというような方法論はとっていません。その意味で経済学は、どんな経済問題にも適用できる強力なツールを持っています。また経済学においては提案される理論を現実のデータと照らし合わせてみて、理論が正しいかどうかをチェックするというも行ってきました。そのため社会科学において経済学は、政策分析のツール、問題を考えるためのツールとして非常に信頼度の高いものになっています。国際経済学におけるそのようなツールを皆さんに勉強してもらうことをこのクラスの目標とします。

Textbook

Krugman, Obstfeld and Melitz, International Economics Theory and Policy, Adison and Wesley, 9th edition

References

Borjas, A friend or stranger: The impact of immigration on the US economy, Basic Books

中村二郎、内藤久裕、神林龍、川口大司、町北朋洋、『日本の外国人労働力 経済学からの検証』、日本経済新聞社

Grading

The grading for this course will be based on problem sets and the final exam. The weights for each will be as follows: Problem sets 40% and the final 50%, and the office hour and class participation 10%. The final exam will be cumulative.

INTERNATIONAL TRADE THEORY

I. Gains from Trade: Basic Model

II. Gains from trade: Production and scale economy

III. Ricardian Model

IV Specific Factors and Heckscher Ohlin model

V. Instrument of Trade Policy

VI: Immigration as Factor Movement

VII: Cost and Benefit of Immigration

VI: Immigration vs. Capital Movement